

交流教育便り「コラボレーション」



No.1
6月23日号

今年度は交流教育便り「コラボレーション」を定期的に発行し、学校間交流や居住地交流など本校の交流及び共同学習について、お伝えしていきたいと思ひます。

〈今年度の各部の交流教育担当者〉

小学部		中学部	高等部
中塚	亀山	乗金	上村
			
小学部で担当させていただきます。中塚です。音楽と映画鑑賞が好きです。よろしくお願ひします。	小学部で担当させていただきます。亀山です。スポーツ観戦が大好きです！よろしくお願ひします。	中学部で担当をさせていただきます。乗金です。皆さんが楽しく学習できるようにがんばります！	高等部を担当させていただきます。上村です。旅行が好きです！よろしくお願ひします！

〈交流及び共同学習の意義〉

No.1 では、交流及び共同学習の意義について考えてみたいと思ひます！

障害のある子どもたちが、自立し、社会参加するためには、一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な支援や指導を行うことが求められています。また、そのような子どもたちが、地域社会の中で積極的に活動し、社会の一員として自身の理想とする生活を送ることができるようにするためには、実社会の中で学びながら自身の能力を高めること、周囲の人たちが障害のある子どもたちやその教育について正しく理解し、認識することが不可欠です。

このため、「交流及び共同学習」を通じて、障害のある子どもたちと障害のない子どもたち、あるいは、障害のある子どもたちと地域社会の人たちが、共に活動することで、学んだり、相互理解を深めたりすることは重要な教育活動となります。

交流及び共同学習は、共に活動することで、
(1) 経験を広げたり、学習を深めたりすること(共同の側面)、(2) 相互の触れ合いを通じて豊かな人間性を育てたり、相互理解を深めること(交流の側面)を目標とした教育活動です。

交流及び共同学習は、一人一人の生きる力を育成し、その力を生かして自立し、参加していくための社会を誰もが生きやすく、輝けるものにしていくための学校教育の一つの取り組みです。

